

2022 年度支部活動【中部支部】開催報告 「日本語教育×音読劇—MAKING WORDS COME ALIVE THROUGH READERS THEATRE—」

主催：公益社団法人日本語教育学会
開催日：2022年11月5日（土）10：30-15：00
会場：愛知淑徳大学 星が丘キャンパス 13B 教室
参加人数：23名（会員16名・一般7名）



11月5日（土）に中部支部活動「日本語教育×音読劇—MAKING WORDS COME ALIVE THROUGH READERS THEATRE—」を、愛知淑徳大学 星が丘キャンパスで開催しました。当日は講師の浅野享三先生（元南山大学外国語学部教授）をお迎えし、中部エリアの方だけでなく、全国各地からの参加者23名とともに、実りある時間を過ごすことができました。

午前は「自分にとって楽しいこと」をお題にしたアイスブレイクで参加者全員の緊張感が解きほぐれたところで、委員らが表現音読劇（Readers Theatre：RT）を実演し、参加者とRTとはどのようなものかのイメージを共有しました。その後、浅野先生からRTの台本の特徴（台本化・音読・演出の留意点等）についてご説明があり、その内容を受け、グループで音読練習を行いました。従来の音読とは異なるRTの音読に戸惑いながらも、どのグループも活発に意見を出し合いながら、音読練習を行っていました。



午後は、グループ編成を変え、演出も含めたRTの練習。浅野先生が台本化した教材『シュモーハウス』『ラナルド・マクドナルド』『かさじぞう』の中で、グループごとに演じたい作品を選択し、役割を決めてから練習に移りました。浅野先生の熱意あるご指導を受けながら、どのグループも時間も忘れるぐらい集中して、練習に取り組みました。その後、グループごとにRTを発表。どのグループも創意工夫をされながら素晴らしい発表を披露されました。偶然3つのグループが同じ教材を使用することになりましたが、グループによって教材の解釈、表現の方法が変わることがよくわかりました。最後は、浅野先生から「RTの外国語教育への応用」についてのレクチャーでした。「外国語が話せるようになることが外国語教育の全てではない」というメッセージと共に、外国語教育でどのような力や資質を養っていくべきかについてのお話があり、日々の教育を考える機会となりました。

事後アンケートには、実体験を通して学びが深まった、日本語教育を通してどのような力を育成するかを考える良い機会となったなどのコメントが寄せられ、多くの方が今回の支部活動に満足したと回答してくださいました。また、久々の対面会場での開催でしたが、好意的な評価が多く見られました。この場を借りて、本支部活動にご参加くださった皆様、そしてご協力くださった関係者の皆様にご心よりお礼申し上げます。

（報告者：支部活動委員：山本裕子・松尾憲暁、支部活動運営協力員：福富七重・土居美有紀・中林律子）